

変化する経営環境における 強い企業の適応戦略 ～多角化経営の視点から～



Contents

- ・(株)オーミヤ 11頁
- ・(株)三共製作所 12頁
- ・レッキス工業(株) 13頁

目まぐるしく変わる経営環境

その対応策は？

中小企業白書、小規模企業白書2023年版では、中小企業は大企業と比較して経営資源が乏しく、成長のためには限りある経営資源を活用し競争優位性を築く必要があるとして、競合他社と異なる価値の創出に繋がる戦略を策定することの重要性を述べている。

この成長に向けた戦略策定においては、ターゲットとする市場と自社の経営資源の分析の必要性が示唆されている。また、特徴ある顧客・ニーズ等の設定や価値創出を継続し試行錯誤しながら取り組んでいくことが重要であると述べている。

社会はアフターコロナにシフトし、様々な価値観が変化したことから、経営環境には不確定要素が増加している。このような変化が激しく、多様なビジネスが乱立する環境下においては、何か一つの事業分野に依存するのではなく、新たな事業分野への進出により多角化を目指すことも一考に値する。

多角化経営のメリット・デメリット

主力事業とは別に新たな分野に進出し、新たな製品・サービスを投入したり、新たな市場を開拓したりすることなどを多角化という。多角化のメリットとしては収益の増大、リスクの分散はもちろん、事業間でのジョブチェンジを活発化させたり、責任者のポジションが複数生まれたりすることで従業員のモチベーション向上などの相乗効果も期待できる。その一方で、コスト負担や損失拡大のリスクの増大、経営の非効率化などといったデメリットもある。

多角化の進め方としては、自社単独で取り組む以外に業務提携やM&Aなど、他社の経営資源の活用によって行う方法もある。また、留意点としては巨額投資を控えリターンスタートすること、既存事業をブラッシュアップすること、新しい競争優

この続きは会員事業所
のみご覧いただけます